

令和3年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

図工

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	○友達の作品をよく見ることができている。造形活動への興味・関心が高い。自分の思いついたものを楽しくつくっているが、見たことのある表現に落ち着くことが多い。	○上手下手の感覚ではなく、個人の見方、感じ方のおもしろさや発想の豊かさを受け止め、指導する。自分はこうしたい、やりたいという意欲を大切にし、オリジナリティーを出すよさや大切さに気付かせる。	○道具との出会い、新しい表現と見方や感じ方を大切にすることで、表現のよさの味わい方を広げられた。間違ふことを嫌い、確認を取る児童が多い。自分の表現に自信が持てるように、今後も支援や手立ての工夫が必要。
4年	○意欲的に取り組むが、表現があまり深まらず、意図を理解せずに、作品をつくることを目的としている様子が見られる。	○作品をつくることに執着するのではなく、何を学んでいるのか、どうしてこれを進めているのかを丁寧に伝える。心がどのように動いたかを意識し、イメージや思考を大切にしながら進められるように授業の構成を工夫する。	○彫刻刀では、手応えのよさと、効果や特徴に触れて進められた。効果的な表現に気づき、新しい見方感じ方、表現の出会いと、工夫の効果を実感できていた。わかりやすい技術的な支援の工夫が必要。
5年	○造形活動への興味は高いが、自分の思いや考えを引き出すことに課題が見られる。友達との対話等の関わりでイメージが広がることで進められる場合がある。	○関わりから、様々な見方感じ方見方感じ方、思いやイメージがあることを共感して授業を進めていく。また、よりよい表現や美しいかたちや色など、造形的なよさに気付けるよう、鑑賞の場を工夫して設定する。	○グループ活動を進めたことで、それぞれの表現や造形的なよさ、個性がお互いに認め合える学習の場となった。発想のおもしろさや、表現の多様性を互いに共感し、自分の新しい知識として捉えられた。
6年	○指示をしっかりと聞き、自分のつくりたいものを考え、自分の思いに合わせてつくろうとしている。技術面、進度の速さなど、個人の能力差があるので、それぞれの想い、個々に合わせた指導が必要である。	○何をどのように表現するのか、ねらいや目的を明確にし、ゴールを自分の判断で決められるようにする。また、低学年との学びや表現の違いなどにふれ、これまでの経験を振り返り、完成までの見通しをもって授業を進める。	○高学年の意識を持って取り組めたが、進度に差もできた。時間と行動と今後の見通しをもたせる工夫が必要だった。自分のゴールを低くし、よりよい表現への探究心や興味が高まらないまま進めようとする児童には声をかけ、意識を高めた。